

船場人

SEBAJIN

今日からあなたも船場人
船場ガイドブック
2022

船場倶楽部
集英地域活動協議会



特集 船場を 継ぐ



ようこそ船場へ

船場は豊臣秀吉の壮大な都市計画の中で誕生し長い歴史の中で栄枯盛衰を経験しながらも常に大阪の経済や文化の中核を担ってきました。昔ながらの整然とした格子状の街路を保ちつつさまざまな先進的なまちづくりも進んでいます。歴史と伝統が息づく泰然たるまちなみの中で今を生きる人々の活気ある営みにも出逢えます。そんな船場をよりよく知っていただくため私どもは毎年このガイドブックを制作しています。今回はメインテーマを「**船場を継ぐ**」としました。さあ、今日からあなたも船場人。

このガイドブックを手に船場のまちを散策しその魅力と素顔を肌で感じていただければ私どもにとつてこれに勝る喜びはありません。

船場倶楽部 集英地域活動協議会

特集 船場を継ぐ

「天下の台所」といわれた江戸時代の船場を生きた人、明治維新で大打撃を受けるも「大大阪」の時代を生きた人、戦争の時代から戦後復興期を生きた人、高度成長期、バブルの時代その崩壊後も人は生きてきた。そして、コロナ禍。価値観が大きく変わる時、人もまちも大きな転換期を迎える。船場もしかり。世代交代が進み、時代を切り拓いていく人たちが、この地で活動が続ける。それは経済であり文化である。船場の商人には、始末・才覚・算用の三つの徳が必要とされた。倏約と創意工夫と計算ができて、店の永続が可能になる。太閤さんの時代から続く船場には、ここで商いをする徳と誇りがある。それは船場の心意気とも言える。「コロナ禍で2022年、本誌も思うように取材ができなかった。そろそろ直に顔が見たい声が聞きたい。テーマは「船場を継ぐ」とした。老舗、新店取り混ぜて、これからの船場人に話を聞いた。船場の心意気を感じてほしい。



「美意識」を継ぐ

老舗の茶道具商が店を構える伏見町。眼力のある人を「目利き」と呼ぶ。茶の湯の美を、古くは大名、また数寄者と呼ばれる人と共有してきた。料理人は「こうと」という言葉をあげた。船場の美意識が受け継がれていく。

株式会社 戸田商店
代表取締役社長

戸田貴士さん

代表取締役専務

戸田善久さん

江戸時代に店を構えた茶道具商

屋号「谷松屋戸田」でも知られる日本屈指の茶道具商、戸田商店は、江戸中期から伏見町に店を構える。現在の伏見町三、四丁目は、伏見城下から商人が移住した所で、初代が店を構えた頃は、舶来の唐物を扱う商人が集住して



「目利き」一谷松屋八代戸田露吟 覚書」木津宗詮著、河原書店2021年刊。特に目利きとして有名な八代目露吟が後の子孫のために書き残した覚え書き。古き良き時代の大坂伏見町の回顧録としても読める。

いたという。大名茶人・松江藩主の松平不昧公に目利きとして認められ、数々の名品を納め、近代には、数寄者・藤田傳三郎、平瀬露香の出入り道具商となり、今に至る。

2022年6月、戸田貴士さんが社長を継いだ。貴士さんがここ数年取り組んできた仕事に、藤田美術館の建て替えがある。

「以前の美術館は、藤田家邸宅の蔵を改装し再利用した展示室でした。藤田家の出入りだった当店は、展示替えや蔵の整理など、長年にわたりお手伝いしてきました。美術館は建て替え工事のため、2017年から休館し、今年4月にリニューアルオープンしました。日本美術の魅力幅広い人に伝えるイベント企画にも協力させていただいております」。

茶道具の世界を開いていきたい

「この仕事は売ったら終わりではありません」と戸田善久さん。「徹底したアフターケアというか、お客様が、納めた道具を茶会に出す時は、何年経とうが必ずお手伝いに行きます」。「ともかく何かあったら駆けつける。それが大事なこと。阪神大震災の時、父も叔父も

伏見町 栢山主人
栢山一希さん

「こうと」とお茶の精神と

2022年11月にオープンした日本料理店「伏見町 栢山」。主人は39歳の栢山一希さん。内装には銘木をふんだんにつかい、庭の石にもこだわり、棚や壁に確かな古美術品を飾る。心地よい緊張感の中、美しい器で、洗練された日本料理を出している。

「「こうと」という言葉を教わりました。派手ではなく地味で質素、かつ上品という意味。それが上方の生活文化の本質だ」と。



かこいやま・かづき 1983年、西宮市生まれ。神戸や東京の料亭や旅館、フランス料理店で修業を積み、27歳で独立。「伏見町 栢山」は開店から一年足らずで『ミシュランガイド京都・大阪2023』で、新規一つ星を獲得。

しつらえは、そんな上方の美意識がコンセプト。店が立つ場所は昔、茶道のお稽古場があったらしく、「こうと」と、お茶の精神を汲んだ空間にしようと思ったそうだ。

栢山さんは、北新地で鳥料理の店を営んできた父と、一緒に働く母の姿を幼い時から見てきた。一から手で作りあげる料理に魅力を感じ、18歳で神戸の料亭へ修業に。

「最初の師匠が良かったんです。そのまま、まっすぐ料理人として歩んできました」。

「縁がつながり船場のまちへ

割烹やフレンチでも修業を重ね、2010年、27歳の時に独立希望者のコンペティションにチャレンジ。審査員の一人から「好きなようにやってみなさい」と言われ、自分の店を持った。新進気鋭の料理人として、大阪の食通に知られる存在になった。



祖父もすぐに飛んで行きました」と貴士さん。名品といわれる茶道具は、二つとないもの。店にあっても、お客様の元にあっても「お預かりしている」という感覚だそうです。

扱う茶道具には現代陶芸もあり、本年よりオンラインショップを始めた。

「茶道具の世界を、閉じられた世界ではなく、少しずつ開いていきたい」と貴士さん。茶道がなくなれば、商いもなくなるという危機感がそこにはある。大阪の美術商の青年会百周年を記念した事業では、子ども茶会を開き、また地域の茶会にも協力している。

現代の目利きたちの今後に期待したい。



カウンター席の後方に設けられた坪庭。井筒の石が据えられ、シダやコケなどの植栽が施されている。昔からここにあったような風情。

そして2017年秋に出会ったのが、武家の儀礼料理「本膳料理」。文化10(1813)年、薬種問屋が集まる道修町三丁目の会所で、船場の町人が長崎奉行所の役人を本膳料理でもてなした。その料理の再現を「大阪くらしの今昔館」から依頼されたのだ。栢山さんは忠実な料理ではなく、自分なりに解釈し再現を試みた。

「二百年前の上方の料理人と対話するような気持ちでした。秋の食材を思い浮かべながら、その出会いを考えていきました」。

その時の経験と学び、そして人との縁が、今の店につながっている。

「古いまちで、大阪の季節が感じられる新しい料理を提供していきたい。まだまだ未完」という栢山さん。船場の老舗の旦那さんや、企業の役員さん、上質を知るマダムなどから支持を得て、船場のまちに育てられている。



伏見町 栢山

完全予約制(予約は電話のみ)
伏見町2丁目4-12
06-6228-3007
18:00~22:00(土日は12:00
~14:00も営業) 不定休
map [1](#)

谷松屋戸田商店

店の奥、大きなガラス窓の向こうには庭と茶室がある。船場で地面に設けられた茶室は珍しい。伏見町3丁目3-10
<https://tanimatsuya.co.jp>
map [1](#)



とだ・たかし(右) 1981年、豊中市生まれ。戸田商店12代戸田鍾之助氏の孫、13代戸田博氏(現・代表取締役会長)の長男。3年間のフランス留学を経て、2003年入社。
とだ・よしひさ(左) 1966年、芦屋市生まれ。戸田家の当主。鍾之助氏が店を立て直し、父の戸田弥七氏が専務を務めた。1992年入社。
軸は、文化5(1808)年、伏見町の谷松屋に来訪した松平不昧公より4代が授かった「式玄庵(いちげんあん)」の号。

「糸偏」を継ぐ



「糸偏」とは、広い意味で繊維関係の産業の俗称のこと。バブル崩壊後、大手繊維メーカーや国際的商社が去ったが、繊維の街、糸偏の街、船場には、元気に生き抜く人たちがいる。

増見哲株式会社代表取締役社長

増見喜一朗さん

家業は継ぐものと思って育った

淡路島出身の増見鉄男氏が船場を本拠地に、服飾資材の卸問屋を始めたのは1939年のこと。ボタン、糸、レース、ファスナーなどを扱うかたわら、刺繍工場を神戸に構え、ハンカチ、エプロンやホームウェアの受注生産も行なっていた。創業者の孫である現社長、増見喜一朗さんは三代目。YKKファスナーの販売会社に勤めた後、2004年に入社、

2010年に社長となった。家業を継いでほしいと言われたことはないが、周囲の期待は子どもの頃から感じ取り、当然継ぐものだと思って育ったという。

「父は船場の商売の仕方にとだわりがあつて、いらんことをするなという考え方です。でも僕は、時代にに合わせて商売も変える必要があると思ったんです。まずは何をやっている会社か世間にわかつてもらえるよう、割烹着kapocのブランド化と、店舗を持つことを目指しました。」

商売の基本はやはり父から

ますみ・きいちろう 1974年、神戸市生まれ。増見哲株式会社に入社後も、稲盛和夫の盛和塾で経営を学んだ。繊維の街・船場を継いでいくために大切なものは何かを日々考えている。現在、大阪久宝寺卸連盟青年経営者の会会長。

南船場に立ち上げた店舗「999+1」は、kapocと手芸用品などを取り扱い、一般消費者や観光客を中心に集客も好調。kapocの通販サイトはコロナ禍以降さらに売り上げが伸び、優れたオンラインショップに与



kapocは割烹着をベースにしながらワンピース、コート、ポンチョとしても着られる新しい発想の洋服。品質の良さ、着心地の良さも人気のポイント。

えられる賞も受賞した。現在、同社は東京、上海、バングラーデシユにも支社を構える。

さらに、祖父の出身校である淡路島の小学校が売りに出ていることを知った増見さんは、校舎ごと買い取りkapocの事業拠点にすることを決意。今後はサステナブル事業の拠点にしたいとも考えている。

「船場商人としての父の心得は、遅刻するな、休むな、派手なことするな、博打するな。僕のやり方は父とは真逆のように見えるかもしれませんが基本は受け継いでいる。」

毎朝7時半には出社し、1時間かけて社員へのメッセージを書き、社員が書いた日報にも目を通す。そういう地味だが堅実なやり方は人を大切にしてきた船場の根にあるものだ。外国人観光客が戻ってくるまで船場の活気を絶やさないことや、幅広い年齢の社員を入れ世代をつないでいくことも大切だという。糸偏の街を受け継ぐことのかけがえのなさを、増見さんは身をもって体現している。



スリーラインプラスワン 999+1

人気商品kapocのほか、全色揃うYKKファスナー、レース、ビーズ、珍しいボタンなどの服飾資材や手芸用品、雑貨類がぎっしり。南船場3丁目1-3 10:00~19:00(土11:00~18:00)日祝休 ※時期により変更あり 06-6252-2852 map [3](#)

船場白生地商店代表

大江陽生さん

ご縁とめぐり合わせの開業

1948年創業の生地の卸問屋、大江商店。三代目の大江陽生さんは2018年、船場センタービルに「船場白生地商店」を開業した。『白生地』とは後染め用の下晒し生地のこと。開業のきっかけの一つは、尊敬する船場の先輩の引退だ。これに伴い店舗が空くと聞き、出店を決めた。もう一つは、北区中津にあった倉庫を訪ねてくる服飾を学ぶ学生の存在だった。

なぜ、わざわざ卸の倉庫にまで生地を探しに来るのかと、繊維街を歩いてみた。一般客用には低価格の布地が充実する一方、ハイブランドが使う上等な生地は少ない。『アパレルを志す学生はもっと上質な生地に出会うべきだし、自分で白生地を染工場に出すオリジナリティも持つてほしい』と思った。

「大先輩が事業を展開してきた場所、はじめは卸の商売だけを考えていました。ところが学生の状況を見て、生地の選択肢を広げる一助になるのではと、一般客向けの店にした



船場白生地商店

生地販売のほか、ミシン店と協力し、1回から参加できる洋裁教室も開催。※住所・営業時間は下記JINGと同一。

のです。ゆくゆくは、生地を染工場に出す方法も伝えていきたいですね。」

恩返しは船場を盛り上げる

白生地には、近江麻や遠州リネン、ベルギーやフランスの高品質な素材を使用したリネン、イタリア製のウールや、上質なコットンも。店オリジナルの白生地は、大江さんが作り上げたい着心地をイメージし、糸の種類・太さ・密度・織り方を決めて発注する。白生地のほか、後染めした生地もあり、それらは染工場に出し、思う色に染めてもらう。「縦糸1イン

チの間に、どんな種類の横糸を何本通すか。これで生地の柔らかさも風合いも変わります」と、職人の顔ものぞかせる。大江さんに、生



おおえ・たかお(右)1977年、大阪市生まれ。購入した生地を使って服を縫い、それを着て再訪してくださるお客様と言葉を交わすのが何よりの喜び。左は妻でスタッフの晶晶さん。Jingにて、壁には抗ウイルス塗料を使用。



Jing

プリント生地に特化した系列店。生地のほか、店で製作する手提げや洋服なども人気。船場中央2丁目2-5 船場センタービル5号館1階北通り 9:30~18:00(土日祝は10:00~17:00) ※土日祝不定休 06-6264-2888 map [4](#)



「商い」を継ぐ

一度は就職するも、会社を継ぎ、自社ブランドを立ち上げた三代目。北区に本社があるメーカーの七代目は、船場でブランドを発信する。船場に戻った人、船場に出てきた人。商いを続ける力がまちにはある。

株式会社ツタハラ 代表取締役

葛原智弘さん

ネットショップで経営を立て直す

株式会社ツタハラは、葛原智弘さんの祖父、葛原千代春氏が1944年に創業した鞆・袋物卸会社。玉造で事業を始め、1952年に南久宝寺町に移転、現在も同地で事業を営む。「祖父の時代の南久宝寺町は、現金卸問屋街として栄えていました。時代の流れとともに当社も掛売り主体の間屋となりましたが、父の時代になって商売は年々厳しくなり、大学



つたはら・ともひろ 1980年、大阪市生まれ。「船場で生まれ育った者として自分を形作ったこの街に愛着を持っています」という。新しい船場の価値は、今の時流に沿ったものに作り変えていくことで生まれてくると考えている。

船場のネットワークと情報集聚力

葛原さんの読みは当たり、ネットショップは軌道に乗って安定収入が得られるようになる。2018年からは現金問屋だった店舗にかえて一般消費者向けの小売店「リエール・レザーアトリエ」を開店。日本の職人が作る上質な



企画から製造、卸、小売までをすべて国内で行っている株式会社ツタハラのような企業はバッグ業界では数少なく、ユニークな存在。

バッグ類は外国人観光客にも注目され始めた。「船場から受け継いだものの中でも、業界のトレンドやニーズをつかむネットワークや情報集聚力には大変助けられています。それを活用した商品開発ができるのも強み。また、もともと船場の現金問屋だっただけに、仕入れ先の信頼が非常に厚い。これも船場ならではのありがたさです」。

そんな葛原さんが、これからやりたいと考えるのは自社ブランドの価値を高めていくこと。最近では社内に工房を作り、職人の育成をスタート。鞆のまちとして知られる兵庫県豊岡市に、バッグ作りを体験できる店舗&工房をオープンしたのに続いて、船場の店舗でも観光客向けの体験教室を開きたいと考えている。

「問屋街が繁栄していた頃の船場は全国から人が集まってきた。その魅力について改めて考え直し、現在に求められるものに作り変えていかななくては。船場の企業がそれぞれの分野でできる限りのことをやり切ることが、街を再び盛り上げることに繋がっていくと思います」。

日本精工硝子株式会社 代表取締役社長

三野親慶さん

心を豊かにするガラスのチカラ

1895年創業の老舗ガラス瓶メーカー、日本精工硝子株式会社直営の「キュートグラスショップ・アンド・ギャラリー」。

北区長柄にある同社は2018年、大正時代の町家を改装し、伏見町に店舗とギャラリーをオープンした。背景には「ガラスに触れ、その良さを再認識してもらいたい」という先代社長・小西慈郎氏の願いがあった。その思いと共に「人々の生活に彩を、心に豊かさを」という理念を掲げ続ける同社を、2021年承継したのが、七代目社長の三野親慶さんだ。

「ガラス瓶は、注いだ飲み物のおいしさや、挿した花の美しさを押し上げてくれる」。

ガラス瓶の魅力をさらに広めるために三野さんが立ち上げたのが、香りのブランド「コハナ・エラ」。懐かしい和も感じさせる香りが、ノスタルジックなガラス製デューザーに詰まっている。化粧品の容器は、約50年前に参入して以来の主力商品。そのノウハウを生

未来のために新たなチャレンジ

ガラスが今注目を集める、もう一つの特長は、天然素材で割れた瓶もリサイクルできること。同社では他社製を混ぜず、自社製のみを再利用し続けてきた。その点に着目し、「エコに華やぐりサイクルプログラム」を、香りのブランドと共に打ち出した。瓶の底に（S）

かして洗練されたデザインの瓶を多数そろえ、今、注目を集めている。



みつ・ちかよし 1984年、西宮市生まれ。先代小西慈郎氏の甥。先代に誘われ、日本精工硝子株式会社へ入社。「古き良きものが残る船場。お客様はまちに縁のある方も多く、優しい。長く愛される店になっていきたい」。



5タイプの香りがある「コハナ・エラ」の一つ「ASAKAZE(朝風)」のイメージは緑色。清々しく落ち着いた香りが好評。スタッフと共に、先代社長の娘さんと営業部所属の織田智香さんも企画や接客を担当。家庭的な雰囲気で購入物が楽しめる。

の日本精工硝子マークがあるガラス瓶をギャラリーに持ち込めば、ガラスの重さに応じてポイントがもらえる。

SDGsの浸透により、化粧品容器などにガラスをしようといった機運が高まる一方、ガラスには製造時や製品輸送時に二酸化炭素を排出せざるを得ない課題もある。

そうした点も自覚の上で、環境対策に尽力するという。

「当社にとっては、ブランドの立ち上げ以前に、小売業自体が大きなチャレンジです。風情ある船場のまちで挑戦していけるのは、先代がこの町家を再生したから。ここは旧宗田家の住宅で、先代の叔母の宗田さんが長年住んでいました。大正時代のデザインと木の温もりが、透明感あるガラス瓶によく似合います。そんな先代の感性も大事にしたい」。

三野さんは、新商品開発と多店舗展開も視野に入れ、挑戦し続ける。



リエール・レザーアトリエ LIERRE LEATHER ATELIER

レディースバッグを中心に、財布、バスケース、名刺入れなどの革小物が並ぶ。すべて自社企画で、メーカーに製造委託したメイドインジャパン。南久宝寺町1丁目3-8 10:00~18:00 土日祝休 06-6261-5041 map [5](#)



「建物」を継ぐ

風情ある木造の町家や、モダンな近代建築が残る船場。近年は戦後のビルも注目されるようになった。

時代を超え、建物は継がれる。そこにはどんな思いが宿っているのだろう。

大阪住宅株式会社 専務取締役

青山修司さん

家族の思い出がある「青山ビル」

1921年、野田家邸宅として竣工、後に青山家が譲り受けるが、戦後、GHQ将校の施設に、返還後、貸ビル「青山ビル」となった。

「小学生の頃から祖父に連れられて、ビルの仕事のお手伝いをしていました。父はここに住んでいた時期もありますし、家族にとって愛着のある建物ですね」と青山修司さん。

それはビルの入居者も同じようで、二代目、三代目と代替わりをしても、同ビルで経営を続ける事業者も数社ある。青山さんにとって入居者は、自治会の仲間に近い関係。建築イベント「生きた建築ミュージアム大阪」をはじめ、さまざまな場面でコラボできる、心強い存在だという。

文化の発信拠点としての活用

竣工当時ダンスホールだった地下空間の文化的活用を3年前から始めた。



あおやま・しゅうじ 1974年、大阪市生まれ。国登録有形文化財全国所有者の会理事・事務局長、大阪府登録文化財所有者の会事務局長を務める。「たてもの御財印めぐり」など、船場エリアを越えて各地の建物活用に尽力する。

「船場商人は教養が高く、文化的な社交場として旦那衆が能楽堂などを建てるほどでした。そんな思いを引き継ぐつもりで、大阪が誇る上方落語や講談、文楽といった文化を応援していきたい」と青山さん。「古典芸能を披露できる場所が減っています。すばらしい文化も知らなければ担い手が減り、演じ手が減ると知る人が少なくなっていく」と。

それはまた、建物についても同じ。「建物も活用してこそ。閉じていると、地域

の記憶から薄れ、忘れ去られてしまうのでは」と。古典芸能があり、建築がある。そして、これらを守り伝える個性豊かな人がここにいる。「大阪、船場には面白いものがたくさんあるんですよ！って、青山ビルから伝えていきたいですね」。

有限会社 大阪繊維共同販売所 代表

濱太郎さん

棚賃しからオフィス賃貸へ

かつて南船場にあった井池。明治初年に埋め立てられたが、池に面していた筋に、その名が残った。戦前は家具問屋が、戦後は繊維卸問屋が集中、船場の繊維街の一面を形成した。濱太郎さんの高祖父は、徳島県から出てきて家具店の丁稚から始め、この地で家具の製造業を営んだ。戦後、曾祖父が木造の「大阪繊維共同販売所」を建て、「OSK」の看板を揚げた。祖父の代に、鉄筋コンクリートの「OSKビルディング」に建て替えた。共同販売所と

いうのは、建物内の「間幅の棚を卸業者に貸す、店貸しならぬ、棚貸し」。小資本でも商売が始めやすく、大いににぎわったという。父は、建物を賃貸オフィスに変えた。それを2014年、業種を問わず活用できるよう24時間対応にリノベーションしたのが、太郎さんだ。

「井池」の魅力を知らせていく

「入居希望の方には『OSKビルは便利なビルではない』と話しています。管理人がいないので、入居者がシャッターを開け閉めすることもあります。お客様というより、共に管理するプレイヤーになってもらえれば」と。

入居者の協力を得て、ビル内のコミュニティが円滑に回りだすと、「井池エリアも盛り上げたい」という思いが濱さんに芽生えた。90年代から井池筋には「井池ストリート」いう



はま・たろう 1967年、大阪市生まれ。近隣の「井池繊維会館」役員も務める。ビル経営をテーマとした取材を受けたり、パネリストとして登壇したりすることも。井池エリアの活性化に、仲間と共に取り組んでいる。

名がある。その線を面々にしたいという。OSKビルやその周辺には、集客力のある人気の飲食店が増えた。が、それは点としての紹介にとどまっていた。それがある時、雑誌に「井池エリア」として紹介された。「うれしかったですね。井池の変化を感じてもらえるよう、一步一步進んでいきます」。

株式会社生駒時計店 取締役

生駒琢磨さん

刀装具から小間物そして時計

堺筋と平野町通りの交差点に立つ「生駒ビルチング」は、船場のランドマークの一つ。オールデコ様式の建物がまちな景観をつくりだしている。1930年に生駒時計店の本店として建設され、現在も同社がオーナーとして本社を置き、2002年からはサービスオフィスとして運営をしている。

生駒琢磨さんは結婚して、代々時計店を営む生駒家に入った。生駒家の歴史は古く、江戸時代初期までさかのぼることができるという。元々、武家を相手に刀装具を扱っていたが、明治維新で帯刀は禁止、町人向けに小間物を扱う「大権堂」を高麗橋四丁目で創業した。職人たちもまた、刀の鑲や根付から装飾品に製作を切り替えて失職を免れた。この明治3（1870）年を創業年としている。その3年後には早くも取扱商品に輸入時計が加わ

る。洋装時代を見越した、先見の明といえる。

ビルは生駒のブランドと共に

近年、時計販売の中心は、トロフィーなどノベルティの受注、製造、販売に移行。立派な店舗を構えて高級時計を売る時代でもなくなった。2002年、自社ビルをテナントビル「北浜T4B」として再生、「サービスオフィス」事業を始動する。テレワークの時代を見据えたかのようだ。当初は運営ノウハウがなく、運営会社に賃貸していたが、2014年完全自社運営に切り替えた。運営をまかされることになった生駒さん。

「職人さんたちと時代を共にしたように、このビルで起業する人を後押ししたい。創業150年を超えた弊社、創業200年まで、生駒のブランドを守るのが私の仕事です」。



いこま・たくま 1985年、鳥取県生まれ。2014年、株式会社生駒ビルチングの経営、「コンシェルジュオフィス北浜T4B」の運営に参画。その後、株式会社生駒時計店の経営にも加わる。記念品事業では入社式や表彰式といったシーンも提案。

生駒ビルチング

国の登録有形文化財。屋上の時計塔や振り子のデザインが施された出窓や丸窓、鷲の彫刻などが特徴。見学は1階受付に要相談。
平野町2丁目2-12 map [9](#)

OSKビル

入り口には、ビルに誰がいるかわかるよう名札を設置。1階から4階までの階段は吹き抜けとなっている。カフェやショップで自由にお茶や買い物。
久太郎町3丁目1-22 map [8](#)



青山ビル

外壁を覆うツタは、甲子園から株分けされて2代目。大正時代のステンドグラスが数多く残る。見学は事前に電話で予約。
伏見町2丁目2-6
06-6231-6397 map [7](#)





「生活文化」を継ぐ

近世、近代、現代と、人が行き交い、人が暮らしてきた船場。商いをする人、商いに来る人、そこに生活する人、意図して、また意図せずとも、船場の生活文化が受け継がれている。

ビーハイブホステル大阪代表

中江孝史さん

暮らしように過ぐす現代版商人宿

20代の頃、ザックを背にして世界各地を旅したという中江孝史さん。現地のホステルで出会った人たちと過ごし、台湾や香港の意欲的な若者に影響を受けて帰国。

「自分も日本でホステルを作りたいと考えていた2014年、妻の実家がある船場にちょうどいい物件が見つかったんです」。

経営を始めてしばらくは外国人観光客がほとんどだったが、コロナ禍で一変。一時期ゲ



なかえ・たかし(右) 1983年、神戸市生まれ。江戸時代の船場に地方から集まる商人の「商人宿」が多くあったと最近知った。「そういう土地柄は、世界中の人を家族のように迎えたいという当ホステルの精神に通じるものがある」と中江さん。左は妻の洋子さん。

ストハウスが急増した船場は、今度はホテル廃業者だらけに。そんな中「ビーハイブホステル大阪」は活況を保ち続けている。

「客層はガラリと変わりました。在宅勤務の人が場所を変え旅をしながら仕事をするワーケーションが増えたんです。また、京都の山間部で美容院を営みつつ、月半分は大阪で美容師をしている二拠点居住の方も。リピーターが多く、生活をそのまま持ち込んで、暮らしように過ぐす人が多いですね」。

時代がもたらした仕事と生活のバランスの変化が、中江さんが目指すホステルのスタイルとも、船場というまちの個性とも、うまく合致したということだろう。それは現代版の「商人宿」ともいえるのかもしれない。

アキナイキッズ

大迫紀恵さん

正畑綾子さん

松下麻紀子さん

面で活躍中の工業デザイナーに外注、そのほか掲載交渉、取材、執筆などすべて一人で担う。尾崎さんが手芸を始めたのは「子どもができて服を作ってから」。材料を買いに通ったのが船場だった。種類も多く他にはないようなものが集まっている。だが「どこにどんな店があるかわからない、趣味レベルでも本当に買えるのか、広すぎて迷う」と感じている一般客が多いと気づく。そこで2018年、ブログ「裸足の洋裁」で繊維街を紹介。毎日数百人、千人以上のアクセスがあった。

「需要はある」と2021年、サイト「船場マップ」を立ち上げ、1枚物の紙のマップを有料販売。手芸・洋裁ファンからたくさん喜びの声が届き、さらに、サイトの情報などを編集し、20ページの小冊子を発行した。

「船場の繊維街が大好き」という尾崎さん。昔も今も、手づくりの楽しさ、それを身につける喜びを人は受け継いでいる。そんな人たちと、船場のまちを尾崎さんはつないでいる。

なにわ門サロン 事務局長

清水ゆう子さん

船場ことばの魅力を語り継ぐ

「船場ことばは商人の間で練り上げられた柔らかく優雅なことば。丁寧語や挨拶ことばの豊かさ、人を思いやる言い回しが多いのも特徴です」と清水ゆう子さん。母の路子さん



おおさこ・のりえ まつした・まきこ しょうはた・あやこ(左から)。ともに1970年代生まれ。「人生をもっと自由に、豊かに、たくましく生きてほしい」という願いから「Akinai Kids」をスタート。活動の次の一手を日々考え、実行に移している。

船場から次世代のリーダーを！

自ら企画製作した商品を販売し、その売り上げでほかの子どもが作った商品を購入する。「商い」のサイクルを子どもたちに知ってもらおうと始まったのが、商い体験イベント「アキナイキッズ」だ。運営を担うのは大迫紀恵さん、正畑綾子さん、松下麻紀子さんの3人。「子どもたちはスゴイ」と言う。初回は完成品のチャームを売っていた子が、2回目ではお客様に最後のパーツを選ばせ、それを付けてチャームを仕上げるセミオーダーメイド商品を打ち出す。4〜5人でパチンコゲーム



アキナイキッズは子どもが主役のマーケット。2022年5月、東横堀川「β本町橋」で開催された第2回イベントの様子。入場無料。1000円のチケットを購入。Instagram / Facebook @akinaikids akinaikids@gmail.com map 11



ビーハイブホステル大阪 BEEHIVE HOSTEL OSAKA

1階ラウンジでは、火～土、Cflatによる日替わりランチを提供。南船場1丁目8-17 8:00～20:00(電話受付) 06-7501-3735 map 10



おざき・まい 1980年代、大阪府生まれ。船場マップ運営・代表、クリエイター。船場センタービルで刺繍リボンの店を運営。日々、サイトやSNSを通して、多くの手芸・洋裁ファンに船場の繊維街の魅力を発信。

船場マップ運営・代表

尾崎麻衣さん

手芸・洋裁ファンのために

2022年4月に創刊したフリーペーパー『船場マップ』は、繊維の街・船場の、一般客でも気軽に行ける、卸問屋マップ&ガイドブック。発行人は尾崎麻衣さん。デザインは多方



しみず・ゆうこ 「居酒屋&カフェ門」のルーツは、ゆう子さんの祖父が1960年代にこの地で始めた「喫茶 門」。その後、母の路子さんが「珈琲・洋菓子 門」として継ぎ、船場ことばの勉強会を始めた。ゆう子さんも幼い頃から船場の空気に親しみながら育った。



『船場マップGUIDE BOOK創刊号』はA5判20ページ。デザインはNAHO DESIGN。現在、有料版を制作中。船場マップの店「心が躍る刺繍りぼん屋」は、船場センタービル6号館1階北通り。https://senbamap.com/map 12



「なにわいろはかるた」のパネル展示より

居酒屋&カフェ門

道修町3丁目3-12
10:00～14:00、
17:00～23:00(LO 22:00)
日祝休 ※土はイベントと貸し切りのみ
06-6231-8509 map 13

船場ガイドブック 2022 MAP

- 1～14 P3～P14 船場を継ぐ
- 連合振興町会区域
- 船場まちの案内板
- ホテル
- 公園・神社等
- 商店街

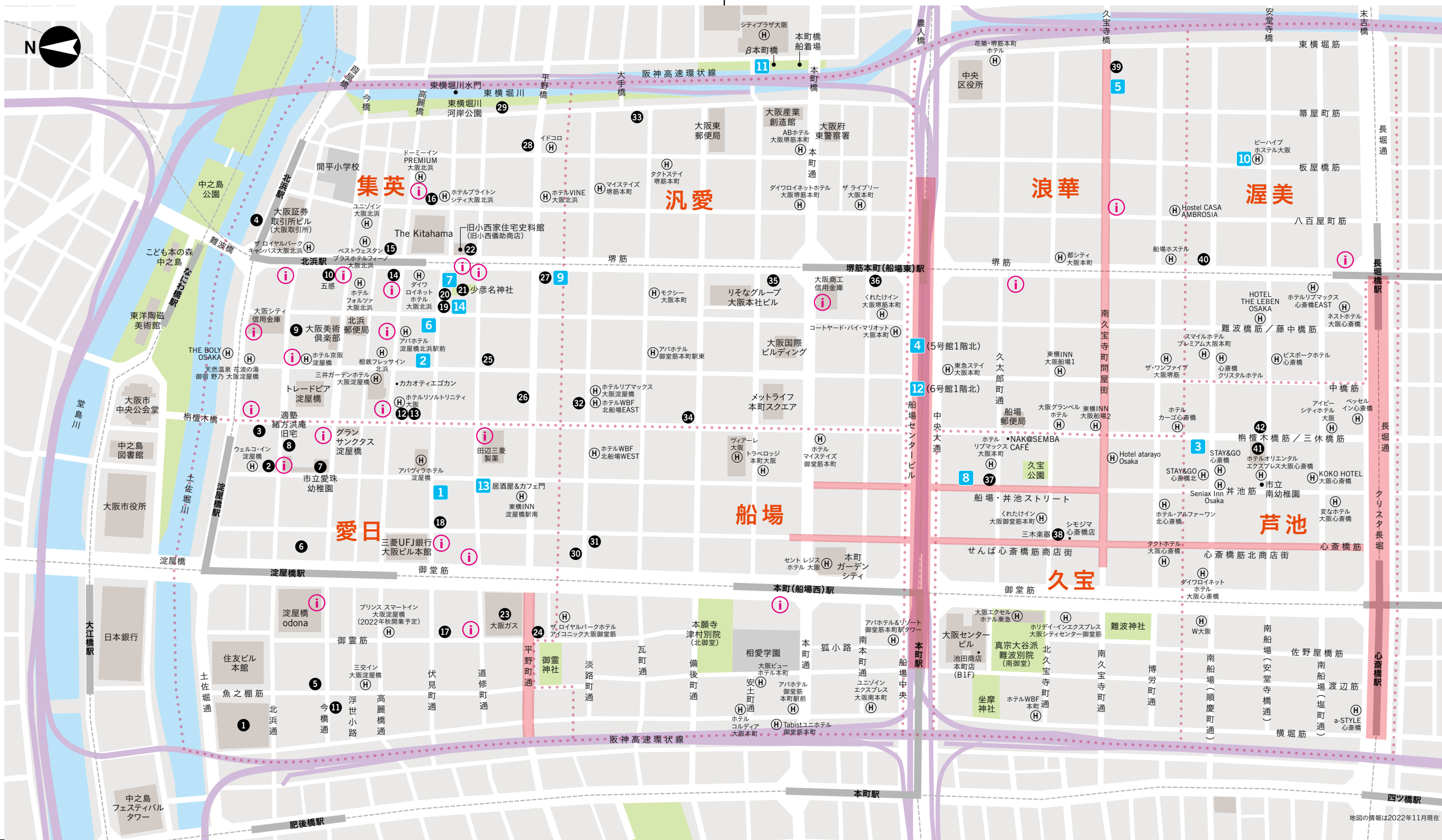
船場の位置



船場の近代建築

- 三井住友銀行大阪本店ビル
- 三共商事
- 吉田理容所
- 北浜レトロビルディング
- 大阪倶楽部
- 日本生命保険相互会社本館

- 大阪市立愛珠幼稚園
- 適塾
- 中村健法律事務所
- 新井ビル
- 今橋ビルディング
- (旧中央消防署今橋出張所)
- 旧大阪教育生命保険ビル
- 日本基督教団浪花教会
- 高麗橋野村ビルディング
- 三井住友銀行大阪中央支店
- 高麗橋トキワビル
- 銭高組分室(旧小西平兵衛邸)
- 芝川ビル
- 伏見ビル
- 青山ビル
- 少彦名神社
- 旧小西家住宅史料館
- (旧小西儀助商店)
- 大阪ガスビル
- 北野家住宅
- 武田道修町ビル
- 小川香料
- 生駒ビルディング
- 三栄源エフエフアイ
- 第一三共製薬別館
- 清水猛商店
- 興和淡心ビル(旧板谷歯科医院)
- 船場ビルディング
- 岸本瓦町邸
- 綿業会館
- ハウザー堺筋本町駅前ビル
- 風蘭ビル(旧明治屋南本町ビル)
- 井池織維会館
- 三木楽器開成館
- クツワ株式会社
- 堺筋倶楽部
- (旧川崎貯蓄銀行大阪支店)
- 大阪農林会館
- 原田産業



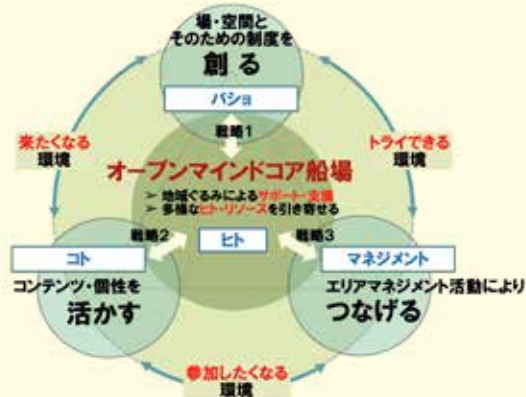
船場の今

「オープンマインドコア船場」を目指して

いま、船場地域では官民連携による「まちの将来ビジョン」づくりを進めている。2019年に実施した「船場2030年提案コンペ」を踏まえて、できることからやってみよう、公共機関・地域の皆さんと社会実験にも取り組む。一つひとつ確認しながら、未来の船場をつくりあげていきたい。船場のまちで「こんなことをやってみたい」というプレーヤーも絶賛募集中だ。問合せ先：船場倶楽部 (info@sembaclub.com)



船場2030提案コンペ
2019年、ワクワクする船場の将来像を募集。公共空間の活用を中心に、多数の応募をいただいた



検討中の船場未来ビジョン(案)

新しい「コト」にトライできたり、参加したくなる「パシヨ」を創り、「マネジメント」でつなげることで、多様な「ヒト」を引き寄せる「オープンマインド」なまちを目指す



せんばパーク花火
久宝公園・隣接駐車場を舞台に、提案コンペ入賞アイデアを実現した手持ち花火イベント。2回目となる2022年は約800人が楽しんだ



高麗橋ストリートパーク

車道を閉鎖し公開空地と一体的に楽しんだり(2020)、道路の片側を車道として残しつつ道路の半分と公開空地で賑わいを演出したり(2021)する社会実験を実施



船場を楽しむイベントもたくさん開催

春と秋に船場の歴史文化に出会える船場博覧会をはじめ、まちなかを楽しむグランピング、まち歩きなど、船場では様々な活動団体が船場の魅力を楽しむことができるイベントを開催している。



春の船場博覧会2022
— 船場のおひなまつり —
船場博覧会実行委員会



船場博覧会2021でのお出汁のワークショップ
東横堀川水辺再生協議会



御堂筋グランピング
(一社)御堂筋まちづくりネットワーク



三休橋筋まち歩きツア
三休橋筋愛好会

歴史文化から日常の風景まで、船場の情報発信

「船場ガイドブック」は、船場に住み、働き、訪れる人に「ようこそ船場へ」と思いを込めて、2012年から毎年秋に発行。イベント会場や船場の飲食店などで配布している。

また、2015年から大阪市や民間企業と協力して、船場の魅力を伝える「まちの案内板」の設置を進めており、これまでまちなかに23基が完成(2022年10月現在)。案内板を巡るだけでまち歩きが楽しめる。

イベント情報や日常風景はウェブサイトおよびSNSの「船場ナビ」で発信中だ。ウェブサイトでは、船場の古写真を閲覧できる「船場アーカイブス」のほか、船場ガイドブックのバックナンバーも見ることができる。



船場「まちの案内板」
2021年、田辺三菱製薬(株)本社前に設置された案内板

Facebook @sembanavisite
Instagram @sembanavi

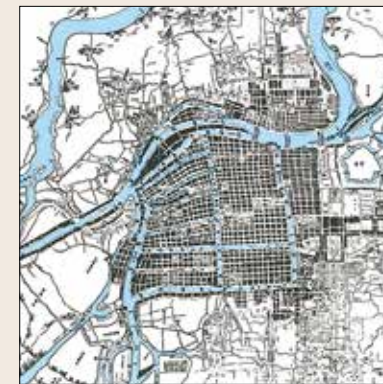
船場ナビ
ウェブサイト



船場とはどんなまち？



船場の位置



幕末から明治の大阪・船場(明治5年)

船場の位置と特徴

船場は、北は土佐堀川、東は東横堀川、南は旧長堀川(現長堀通)、西は旧西横堀川(現阪神高速道路)に囲まれた南北2・1km、東西1・1kmの約230ヘクタールの区域をいいます。

港から大阪城に向かって、船場のまちは東西の「通り」を軸として発展、これに南北の「筋」が交わる格子状のまちがつくられ、今もま

ち割りが残っています。明治以降、堺筋や御堂筋等の整備により、人の流れは南北の「筋」が中心となりました。通りや筋の沿道には、現在も数多くの近代建築はじめ歴史的な建物が残り、ま

船場400年のあらし

船場は、豊臣秀吉による大坂城築城に合わせ、西側の砂州の埋め立てで生まれたまちです。

大坂夏の陣、明治維新、太平洋戦争と、船場は幾度も壊滅的被害を受けましたが、その度に新たな人びとを惹きつけて蘇り、かつての伝統と融合して新しい時代の船場の魅力を創りだしてきました。

水運の拠点から商都へ

江戸幕府直轄地後、更に埋め立ては拡大され、船場は水運の拠点となり、全国から人と富と情報を集積、大坂が城下町から経済都市に変容します。船場では金融・業・繊維・輸入雑貨など多くの問屋が繁栄します。

商都大坂の中心から町人文化の発信

この間、近松門左衛門に代表される文芸・芸能はじめ、多くの町人学者を輩出した懷徳堂など、なにわ商人の誇りある町人文化が育まれ、継承されました。

近代化による大大阪へ

明治維新により、大阪の経済的基盤は壊滅的打撃を受けましたが、その後急速に工業都市化し発展。大正期には「大大阪」と呼ばれる時代を迎え、モダンで最新の都市文化スタイルを創造しています。

新しい都心の魅力を求めて

戦後の復興を支えてきた船場も、1970年代からの繊維不況や産業構造の変化で、かつての賑わいを失っていききました。

戦前には約6万人あった人口も、一時約4千人まで減りましたが、2015年以降、約1万人を超えるまでに回復してきました。

昼間は約20万人が集中する業務都心に変わりありませんが、商業・業務機能の中心がキタとミナミへ集中するなかで、新しい都心船場の魅力が生まれつつあります。



協賛広告

船場ガイドブック2022に協賛いただきました
お店と企業です。

※広告に記載している休業日・営業時間などは
変更される可能性があります。

創業1888年
IK 池田商店紳士服部 本町店

創業134周年を迎えた老舗の技術を 生かし、最新のスタイル
リングのスーツをお求めやすい価格でご提供しております。

特別価格 国産生地使用仕上り 6万円～
舶来生地使用仕上り 8万円～

営業時間 月～金 10時～18時 土 10時～15時
日祝日・第2、第3土曜休 電話 06-6252-7758

住所 中央区久太郎町4-1-3
大阪センタービルB1 (旧伊藤忠ビルB1)

“いい時代と、いい音楽のために”
MIKI GAKKI 三木楽器株式会社

1825年創業。音楽への探求を続け、音楽文化の
発展とともに2025年に200周年を迎えます。

開成館 ピアノショップ
営業時間: 10:00～19:00(水曜定休)
所在地: 北久宝寺町3丁目3番4号
電話: 06-6252-1820
WEB: <https://www.miki.co.jp>

国登録有形文化財

五感 北浜本館

大阪市中央区今橋
2-1-1新井ビル
TEL.06-4706-5160

<http://www.patisserie-gokan.co.jp>

未来へ飛ばそう
あなたの夢を

三倉実業

応援します! 地域とあなたの輝く未来
信頼で地域とつながる
大阪シティ信用金庫

本店/〒541-0041 大阪市中央区北浜2-5-4 TEL. (06) 6201-2881 (代表)
<https://www.osaka-city-shinkin.co.jp/>

大阪府内に87店舗。大阪市内全24区に店舗を有する唯一の地域金融機関です。
令和4年11月1日現在

選択肢をつくる。
希望をつくる。

田辺三菱製薬

(株)シモジマ心斎橋店

文房具から包装紙、店舗用品、キャラクター
雑貨まで約70,000点の幅広い品揃えを誇
るお店です。
すべて卸価格ですが、どなたでもご利用いた
だけます。是非一度お立ち寄りください。

営業時間 10時～18時半
定休日 不定休
電話 06-6252-4361
住所 中央区北久宝寺町3-3-8

居酒屋&カフェ 門

定番人気はチキン南蛮と夜の石焼きカレー。
道修町で60余年、「おおきに」の心を受け継いで
豊富なメニューをリーズナブルにご提供。
船場の歴史資料を展示したり催しもしております。

営業時間 11時～14時/17時～23時
土曜は貸切予約のみ 日祝休
電話 06-6231-8509
Eメール youtora813@gmail.com
住所 中央区道修町3-3-12

地域の皆さまとともに歩む信用金庫

Shoko 大阪商工信用金庫

〒541-0053 大阪市中央区本町2丁目2番8号
本部 TEL. 06-6267-1636 (代表)
<http://www.osaka-shoko.co.jp/>

Cacaotier Gokan
Chocolat et Glace

カカオティエゴカン

大阪市中央区高麗
橋2-6-9
TEL. 06-6227-8131

<http://cacaotier-gokan.co.jp>

NAK@SEMBA CAFE

2022年秋、船場のヒト・モノ・コトが
繋がり、発信する場として、コミュニティ
スペース「ナカセンバカフェ」を期間
限定でオープンいたしました。
船場でかわりあう皆様とそれぞれの想
いを持って楽しみ、共に創り上げる「場」
にしていきたいと思っております。

原野株式会社 不動産事業部
開発チーム TEL.06-6263-2511

@nakasemba_cafe
大阪市中央区久太郎町3-2-11 船場エクセルビル1階

BELOVED
STREET
MIDOSUJI

ずっと愛され続ける
御堂筋を。

大阪ガス

大阪船場ロータリークラブは船場のまちづくりを応援しています

Rotary

IMAGINE ROTARY

大阪船場ロータリークラブ
The Rotary Club of Osaka Semba
tel. 06-6244-1008
e-mail. semba@cocoa.ocn.ne.jp

船場倶楽部
「まちの案内板」
設置場所: 中央区本町4丁目御堂ビル
協力: (株)TAKプロパティ(竹中工務店)
設置年度: 2020年度

船場倶楽部

「まちの案内板」の設置を契機として、「地域連合振興町会」「船場地区HOPEゾーン協議会」「船場げんきの会」が発起人となり、2015年9月11日に船場倶楽部が発足。その後、一つの組織に再編統合して、船場で活動する団体が一堂に会する現体制の「船場倶楽部」が2018年に誕生した。

船場倶楽部では、船場の歴史・文化を引き継ぎながら、未来に向けて人びとの暮らしやビジネス・文化を磨き、一層魅力ある船場の姿を求めて、まちづくりを進めている。

設立：2018年6月7日

会員：正会員（地域連合振興町会、商店街、まちづくり団体、法人企業）70名
賛助会員（法人、個人）62名（2022年9月現在）

船場倶楽部 事務局

〒541-0044 大阪市中央区伏見町2丁目2-3 伏見ビル1F [map](#) [14](#)

info@sembaclub.com www.sembaclub.com



伏見ビル1Fの船場倶楽部事務局



船場倶楽部
SEMBA CLUB

この船場ガイドブック2022の制作にあたり

船場倶楽部が公益財団法人 東教育財団の地域文化事業助成を

集英地域活動協議会が大阪市中央区地域振興活動補助金を受けています

船場ナビ 船場の情報をまとめて発信する「船場ナビ」

イベント情報や日常風景をウェブ・SNSで発信

まち歩きで使えるGPSイラストマップも公開中

船場ナビ

検索



船場ガイドブック2022

制作：船場倶楽部 集英地域活動協議会

編集会議：谷口康彦、千葉桂司、塚村真美、日比哲夫、三谷直子、米田佳代

デザイン：ツムラグラフィック イラスト：川口澄子 取材・執筆：植田朋子、田本夕紀

編集協力：株式会社ワークルーム